

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.106

< 目次 >

【報告】

- ★ 磯の観察会 1
- ★ 磯の観察会に参加して 3
- ★ 海洋フェスタ2014「スナッシーを探せ」 4
- ★ NPOいわき環境研究室の動きから 6

【行事案内】

- ★ 第1回環境講座 7
- ★ 自然観察会 7

【リレーエッセイ】

- ★ 3年間使った100円腕時計 8

【報告】

磯の観察会

平成 26 年 7 月 27 日にいわき地域環境科学会主催の磯の観察会が、三崎公園内三崎前海岸で開催されました。この日は朝から晴れて、風がなく絶好の行楽日和に恵まれました。前日に岐阜県多治見市で 39.3℃の今年最高を記録するほど日差しが強く暑い時期でしたので熱射病に注意しました。

定刻の 10 時に潮見台前駐車場に全員集まって、山田事務局長の司会で、諸橋会長の挨拶、共催のパルシステム福島より和田さんの挨拶がありました。班を編成してリーダーを



決めた後で海岸に向かいました。参加者は、4歳から小学5年生までの子ども15名と保護者や一般参加者が25名で、本会のスタッフ12名で総勢52名でした。



波打ち際で参加者全員にカニ釣り用道具と餌のイカを配布しました。その後は班別にカニ釣りや磯の観察を行ないました。毎年のことですが、餌のイカに誘われてカニは岩の間から顔を出して食べようとするのですが、タモ網を補助に使っても釣り上げることが難しかったようです。これまでの最高は1人5尾でしたが、今年は12尾も釣り上げている人がいて記録を更新していました。餌のイカに集まるハゼなどの小魚を捕って楽しんでいました。大きなアメフラシをバケツに入れて手で触ったりしていました。黄色いウミソウメンというアメフラシの卵が近くにあったので説明しました。イソギンチャクの姿が見えないとの質問を受けましたが、干出した岩の間に丸まっていて手が見えなかったので似ても似つかぬ姿で判らなかつたのは当然でした。磯の動物についての質問はありましたが、海藻については聞かれませんでした。全員夢中になっていて、1時間半があつという間に終わりました。せっかくバケツに入れた魚、カニ、アメフラシなどは海に戻しました。



12時前になって砂浜に集合して閉会式を開きました。動物が入ったガチャガチャを記念品として嬉しそうに受け取っていました。

けがもなく、海に落ちる子どももなく無事におわつたことで安心していると、一転俄か

に雷が鳴って猛烈な勢いで雨が降ってきました。帰り道で参加者が濡れていないか心配するとともに、良い時に終えたと思えました。

【報告】

「いそのかんさつ会にさんかして」

中おうだいきた小学校 2年 あべひかり

今日、魚をいっぱい海でとりました。

わたしは、「ちっちゃい魚」と「やどかり」しかとれませんでしたが、でも、おかあさんとおとうさんは「あめふらし」や「かに」をいっぱいとりました。わたしも「いろんな魚をとってみたいな。」と思えました。「また、海でたくさんとりたい。」と思えました。今日はとってもたのしかったです。



「磯の観察会に参加して」

パルシステム福島 阿部恵子

震災前は、夏が来ると我が家は決まって「薄磯海岸」に足を運んでいました。そして、磯に棲む生き物たちを探したものでした。しかし、今回参加した娘は3歳の時に被災したため、磯で遊ぶという経験も出来ずに小学生になってしまいました。経験のない娘は、この企画に参加できることを毎日楽しみにしていました。当日は天候にも恵まれとても良い経験が出来ました。

磯に到着して、網を片手に水の中を覗きこむ娘の目に飛び込んできたのは、小さな魚でした。娘が網を水の中に入れると、簡単に魚がすくえたので夢中になって何匹も魚をすくっていました。初めての体験だったので嬉しかったようです。また、幼いころは「ヤドカリ」を怖がって泣いていた娘ですが、簡単に捕まえることができる「ヤドカリ」も何匹も捕まえていました。豆図鑑を持参していましたが、いわき地域環境科学会のみなさんの資料などを参考に生き物を確認することも出来ました。

自然は不思議なもので、海に夢中になっていたのは娘ばかりではなく私達夫婦も同じでした。カニをイカの足で釣る。「昔ザリガニをこうしておびき寄せたよね」など話しながら、何分も岩場のカニの巣？の前に釘づけでした。素手でカニを捕まえたり、洋服を濡らしながら手を水の中に入れてウミウシを捕まえたり、大人の私達も童心に返って夢中で時間を過ごしました。

いわき地域環境科学会のみなさん、パルシステムの環境委員会のみなさんのおかげで娘にまた一つ、夏休みの思い出が出来ました。有難うございました。

【報告】 海洋フェスエス 2014「スナッシーをさがせ」

8月24日（日）日本財団の助成事業である海洋フェス 2014「スナッシーをさがせ」が実施されました。当日は夏休み最後の日でしたが、朝からまずつの天気で参加者は受付開始時間の9:30頃から集合し始め、開始時間の10:00には一組を残し受付を終り、イベントが始まるのを今か今かと待っている様子でした。

科学会のスタッフ4名は9:00に集合し受付の準備をし、そこにイベントの午後の部を委託したタッチ・ザ・サイエンスのスタッフ4名（右下の写真）も合流し最終の打合せを済ませ準備が整ったところで10:00にアクアマリン福島のウオノゾキ前で開会式を行いました。



会長は挨拶の中で多くの皆さんが参加してくれたことの御礼とこのイベントを実施できたのは日本財団の助成があったため、また古川課長をはじめとしたアクアマリン福島の職員の方々の、またタッチ・ザ・サイエンスのスタッフの協力それに配布した手ぬぐいは地元のNPO団体が作ったものであること等、多くの人たちのおかげであることを話していました。

次いで日程と注意事項の説明をした後、科学会と日本財団の旗を子供たちに持ってもらい全員で記念撮影（次ページ）をした後ウオノゾキに入りました。ウオノゾキでは、2班に分かれ海中に沈めたかごをみんなであげポリバケツに移していました。かごの中は水温が高いせいで多くは入っていませんでしたが、黒くて丸い卵がっていました。次いでウオノゾキ内でオリエンテーリングをしていました。そのあとは、フリータイムとし、自由にアク





アマリン福島の中を見学し昼食をとってもらい、12時50分にアクアマリンふくしま入口に誰も遅れず集合し、用意したバスに乗り込み薄磯へと向かいました。薄磯海岸に到着したころにはぽつぽつと雨が落ちてきましたが、ここはタッチ・ザ・サイエンスのスタッフの出番です。スナッシーてなんだかわかりますか。との質問から、鳴き砂のクイズをして、海の砂が鳴くことを参加者に教えました。

参加者もみな足で砂をけるように歩き、その音を何度も確かめていました。そのうち雨も上がり最後に、塩野崎の灯台に上り、高いところから海を眺めていました。

帰り際タッチ・ザ・サイエンスからお土産をもらい、バスの中で会長から終わりの挨拶があり無事アクアマリンに到着しました。参加者はみんな楽しかったと言っていました。夏休みの宿題を早めに片づけた子供さんに対していいご褒美だったようです。



【報告】

◇◇◇ NPO 法人 いわき環境研究室 からの報告 ◇◇◇

(平成 26 年 7 月 1 日～8 月 31 日)

【1】「小学生の夏休み自由研究のための支援講座」を開催しました

7 月 13 日 (日) 午前 10 時から 14 時、いわき市フラワーセンターにて講座を開催しました。今回は、「風の持つさまざまな力を考える」をテーマに、講義と実験を交えての支援講座となり、親子 7 組が参加しました。平川英人さんの開講挨拶の後、講義①では「空気の持つさまざまな力」(中西恒雄さんが担当)をテーマに真空フックの力や長いストローを使って床の上のジュースを吸い上げる実験等を交えながら、目に見えない空気の力について考えました。

講義に続いて、参加者全員で「風上に向かって進む車」作りに挑戦しました。皆、悪戦苦闘しながらも、車づくりに集中していました。昼食を挟んで、2 m の距離を何秒で走るかタイムを競いました。競技内容について古内栄一先生から講評を戴きました。この間、草野芳久さんから、太陽光を使ったさまざまな模型の演示実験の披露がありました。講義②の「自由研究の進め方」は、橋本孝一が担当し、午後 2 時過ぎ無事講座を終了しました。

【2】農業用水路の環境調査

7 月 20 日(日)、昨年に引き続き小川町関場地区農地・水環境保全団体からの依頼で、同地区内を流れる農業用水路の環境調査の支援を行いました。地区からは、43 名(児童 22 名、保護者 21 名)が、また当 NPO からは平川、江尻、橋本の 3 名が活動に参加しました。

最初に 6 班に分かれて、地区内を流れる農業用水路に入り水生生物の調査を行いました。多数のシマドジョウ、トビケラ、トンボのヤゴ、トノサマガエル、タモロコ、カワニナ、ヒル、ミズムシ等、一見、生き物など見当たらないと思われる水路にも多くの生き物が生息しているのを実感したようでした。現地調査の後、関場集会所に戻り、班毎に農業用水路、小川江筋、加路川の 3 種類の水の水質(COD、透視度、におい、導電率)を分析、互いの水の特徴について考えました。実験後、水生生物及び水質調査結果のまとめと外来魚について平川さんから説明があり、講座を終了しました。



班毎に採取した水生生物の分類に挑戦

【行事案内】

第1回環境講座のご案内

第1回環境講座を次のとおり開催します。

日 時：9月27日 13:30～15:00

場 所：生活協同組合パルシステム福島いわき
センター（常磐西郷町落合278）

*有機合成薬品工業株の西隣

講 師：和田 隆さん（会員）

演 題：「これまでの放射性物質検査データから見えてきたこと」



【行事案内】

自然観察会のご案内

森の自然観察会を次のとおり開催します。

日 時：10月19日（日） 9:30～12:00

場 所：石森フラワーセンター園内

講 師：古内栄一さん

テーマ：石森山で観察される中間温帯の植生を学ぼう。

集 合：石森山フラワーセンターライフ館（北入口ライフ館手前駐車場、忠教寺の向い
から入ってください。）

※ ライフ館内には、そば屋もありますので、観察会終了後に利用することもできます。

上記二つの事業に参加を希望される方は資料の準備のため、予め下記まで申し込み
ください。

E-Mail : akiraretu@yahoo.co.jp

T E L : 090-8618-2893

【リレーエッセイ】



3年間使った 100 円腕時計

平川英人 (会員)

退職して1カ月経ってから生まれて初めて小遣帳をつけるようになり、現在まで5年4ヵ月継続しています。小遣帳といってもエクセルで自分の使いやすいように作ったファイルのことで、印字したことはありません。この記録によると平成23年7月7日にダイソウウェブリア店で100円時計を手に入れました。

購入した理由は5カ月前にGショックを通信販売で購入したのですが、4ヵ月で動かなくなっていて、販売元に修理を依頼している間のつなぎとして1ヵ月でも使えればと気楽な気持ちでした。

Gショックは1ヵ月半の間3回も故障して、その度に修理に出して、その間ずっと100円時計を使っていました。壊れた4回目のGショックはさすがにそれ以上修理する気になれず、新しい同じタイプのGショックを今度は通信販売ではなくスーパーで購入しました。

代用品として使っていた100円時計は正確に時間を刻み、日常的に使う分に不自由を感じませんでした。デザインもシンプルで黒色に統一していて100円には見えないものでした。毎朝いわき公園へ散歩するときには必ず使用しました。調査のときなどは、防水機能はありませんでしたので、海岸で濡れそうなときはGショックでしたが、それ以外の調査の時などは主として使うようになりました。使っている間に愛情を感じ始めて、人に自慢気に見せるようになりました。故障もなく、部品も壊れることはありませんでした。ただ唯一の例外は時計バンドを回して、金具を通した後に動かないようにする定革という部品が、取れてしまったことです。この時は100円以上使って修理するのも変なので紫色のゴム紐で間に合わせました。

今年の1月に入って、腕時計を正面から見ると時刻が判りづらくなったためやや斜めの一方向だけしか読み取ることができなくなりました。

もう少しの寿命と思ってふいーど102号(3月号)にエッセイとして投稿することにしたら、なんとその時から5ヵ月間も動いて、購入したときと同じ7月7日にととう寿命が尽きました。ちょうど3年間私のために働いたことに感謝しました。安い腕時計でしたが、3年間も長期に亘って使えたことを誇りました。これを機会に日常品、学用品など身の回りのものを寿命が尽きるまで使い切りたいと思います。

2014. 9.1 No.106

発行：いわき地域環境科学会
福島工業高等専門学校
地域環境テクノセンター内
〒970 - 8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0821

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org

URL : <http://www.essid.org/>